

令和6年度 東山小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

令和6年10月改訂
学校番号：25012

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
◇東山スタンダードを基に、学習ルール・掃除の仕方など統一したきまりで行うことで、学年が変わっても安心して学習できる環境づくりができています。 ◇学校で「振り返り」の観点を定めて取り組んだことで、子どもが振り返りを行うよさを実感できるようになってきている。 ◇「チャレンジスタディ」（家庭学習）を子どもへの指導だけでなく、家庭にも協力を依頼することで、約70%の子どもが計画的に勉強できている。	◇授業で学んだことを他の学習や生活に生かそうとしている児童の割合が全国より低いので、他の学習や生活との関連を意識して取り組んでいく。 ◇家庭学習の時間が30分以下の割合が全国より高く、漢字や基礎的な計算の正答率が低くなっているため、基礎基本の定着のための手立てが必要。 ◇全国学力・学習状況調査等で、「話すこと・聞くこと」について全国平均を下回っており、言語能力を高める指導をしていく。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇本校の重点目標を『自己有用感』をもち、『自己肯定感』を高める」とし、縦割り活動の「太陽っ子活動」を通して、異学年でふれあい、お互いのよさを認めることができている子が多い。 ◇学習の場面で自分の考えを出し合いながら学ぼうとする意識がやや低いので、学び合うよさを実感させる関わりが大切。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

進んでかかわり 学び続ける力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇研究主題「進んでかかわり 学び続ける子」の実現 →子どもが「どうして?」「調べたい!」と思うように導入を工夫する。 →学習したことを振り返り、学びの実感や次の学びにつながる単元を通じた授業づくりに取り組む。 →教員の資質向上のために、ミニ研修やワークショップの機会を充実させる。 →高学年に1部担任外の専科指導を取り入れる。	◇全校朝会に子ども主体の場の設定 →委員会の発表の時間を確保し、どんな活動を行っているのか全校に広める。 ◇学校評価に子どもの声を反映 →教職員の方針に対して、子どもにアンケートを取り、子どもの声を踏まえた取組の実施。

〈本プログラムの実行に向けて〉

